2027年3月期
第２四半期決算説明会

2026年11月2日

ＮＧＫ株式会社

代表取締役社長

小林　茂

本日のプレゼンテーション

- 2027年3月期　第２四半期 連結決算概要
- 2027年3月期　通期　業績見通し
- 事業セグメント別　今期見通し・展望
- 事業ポートフォリオと事業再生・撤退検討プロセス／NV1000からNV3000へ
- 研究開発費／設備投資・減価償却費
- 要約キャッシュフロー
- 資本政策／配当
- サステナビリティ経営の推進
- 企業価値向上に向けて

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

本資料に記載の金額は、億円未満を四捨五入して表示しています。このため、合計値が内訳の合算と一致しない場合があります。

27年3月期　第２四半期　連結決算概要

（億円）	26年3月期	4月公表値	27年3月期	前年同期比 為替影響	前年同期比 増減率
売上高	3,262	3,500	3,713	+178	+14%
営業利益	487	530	699	+79	+44%
経常利益	467	530	704		+51%
親会社株主に帰属する中間純利益	239	450	608		+155%
為替レート ﾄﾞﾙ	147円	(150円)	160円		+12円
為替レート ﾕｰﾛ	168円	(175円)	184円		+16円

売上高、各利益で上期として過去最高を大幅に更新。投資有価証券売却益を特別利益に計上。

■ｴﾝﾊﾞｲﾛﾒﾝﾄ　(EN)　米国を中心とする出荷増が寄与し増収。利益面では増収効果と費用抑制により増益。
産業プロセスも、医薬用水向けの膜設備や電子部品向けの耐火物が堅調に推移。

■ﾃﾞｼﾞﾀﾙｿｻｴﾃｨ　(DS)　前年同期比大幅な増収・増益。AI用途の半導体需要が大きく増加し、半導体製造装置用製品は好調に推移。
ハイセラムキャリアは増産投資の立上げで出荷が伸長。データセンター投資の拡大を背景にHDD用圧電素子も堅調。

■ｴﾈﾙｷﾞｰ&ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｰ　(E&I)　NAS電池の製造・販売終了により減収となる一方、電力需要の増加に伴い米国を中心に送配電網への投資が拡大し、がいしの需要が堅調に推移。営業損益は黒字に転換。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

27年3月期　通期見通し

（億円）	26年3月期	4月公表値	27年3月期	前期比 為替影響	前期比 増減率
売上高	6,701	7,100	7,700	+125	+15%
営業利益	950	1,070	1,300	+77	+37%
経常利益	952	1,050	1,260		+32%
親会社株主に帰属する当期純利益	599	820	1,000		+67%
為替レート ﾄﾞﾙ	151円	(150円)	155円	150円	+4円
為替レート ﾕｰﾛ	175円	(175円)	180円	175円	+6円
ROE	7.8%	(10.0%)	12.1%		

下期前提

全セグメントで4月公表値から増収・増益。売上高及び各利益で過去最高を大幅に更新する見込み。

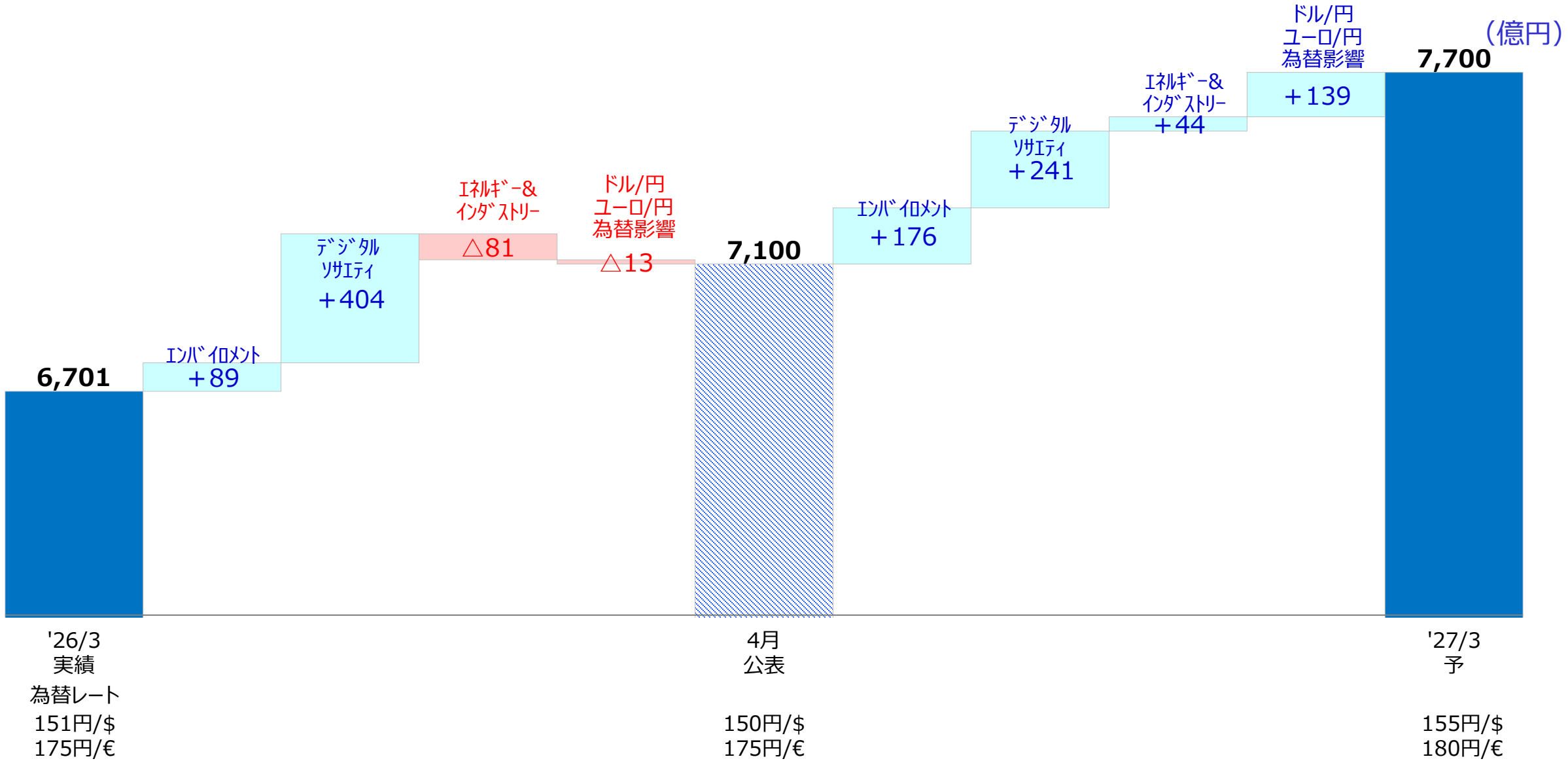
■ｴﾝﾊﾞｲﾛﾒﾝﾄ　(EN)　自動車関連は、費用等の上期反動を見込むものの、上期の出荷増や円安が寄与。
産業プロセスでの電子部品向け耐火物製品の堅調も反映し、4月公表値から増収・増益。

■ﾃﾞｼﾞﾀﾙｿｻｴﾃｨ　(DS)　AI半導体向け需要の拡大を背景に、半導体製造装置用製品とハイセラムキャリアが伸長し、
4月公表値から増収・増益。更なる成長に向け、積極的な投資を継続。

■ｴﾈﾙｷﾞｰ&ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｰ　(E&I)　がいしは、データセンター投資の増加に伴い米国を中心に送配電網への投資が継続し、4月公表値から増収・増益。
エネルギープラントは更新需要とメンテナンスを中心に概ね計画どおり。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

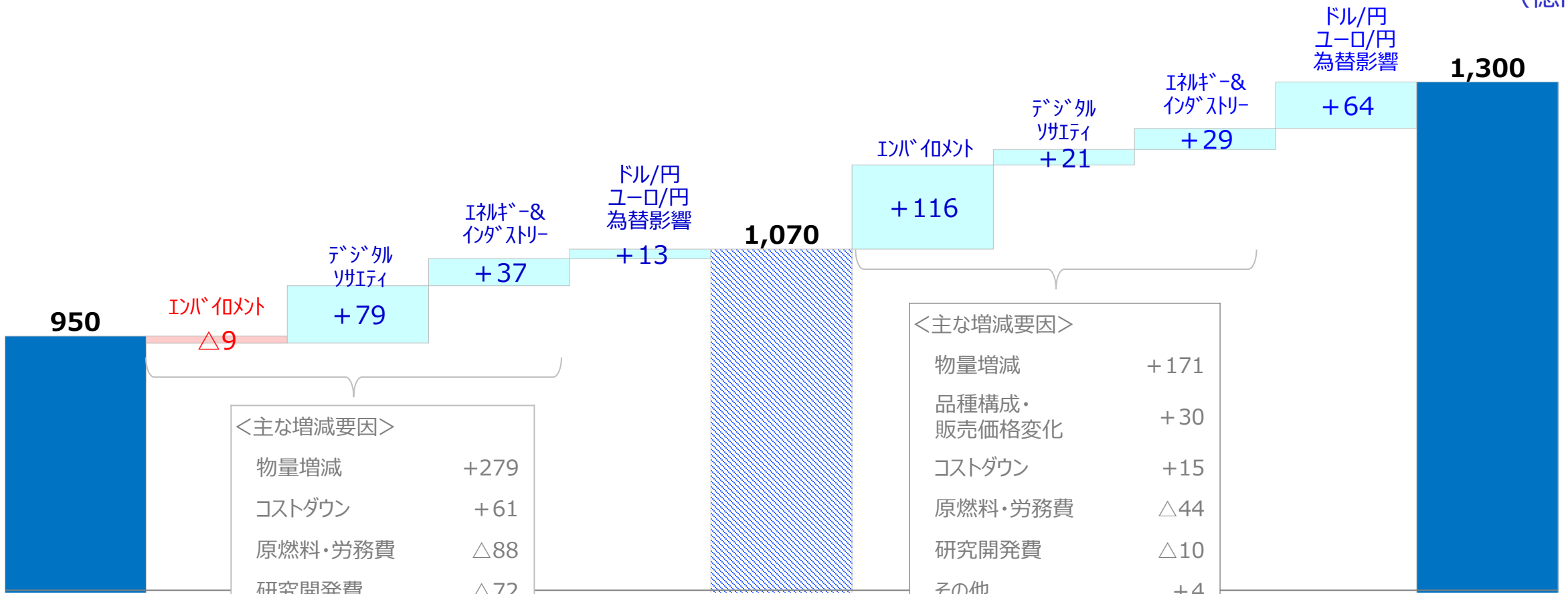
27年3月期　売上高　増減内訳



All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

27年3月期　営業利益　増減内訳

（億円）



All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

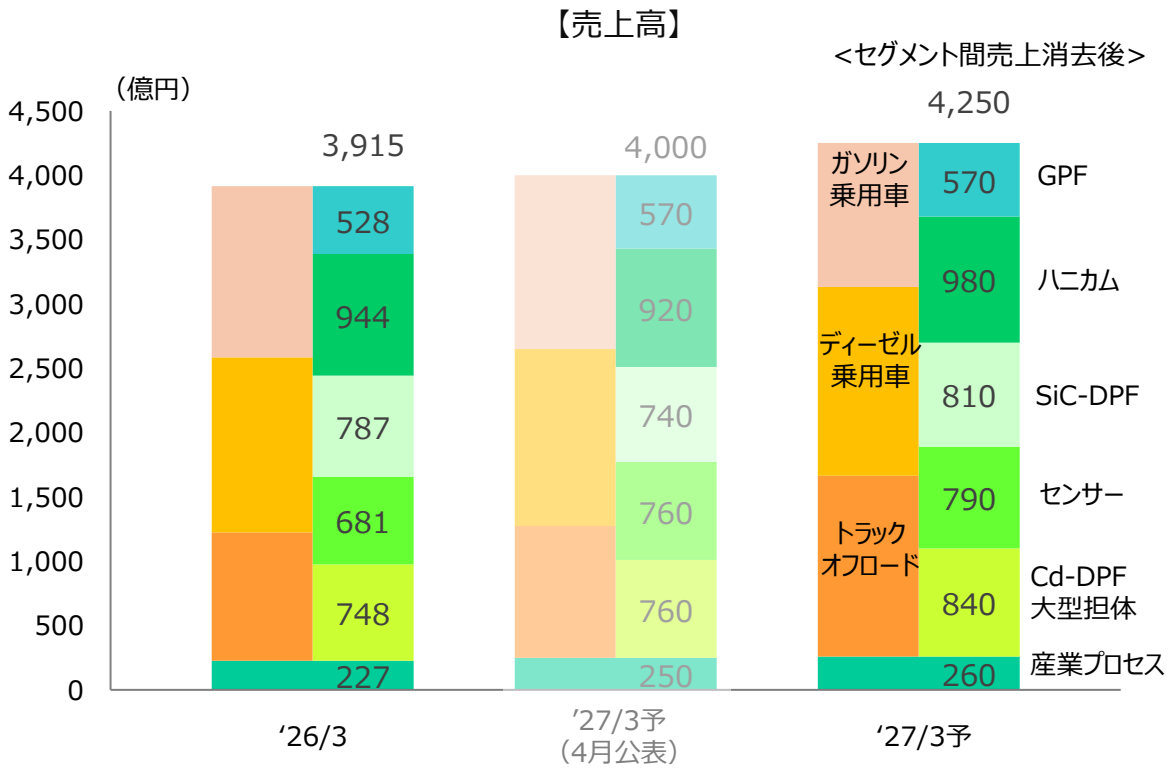
エンバイロメント(EN)事業の今期見通し

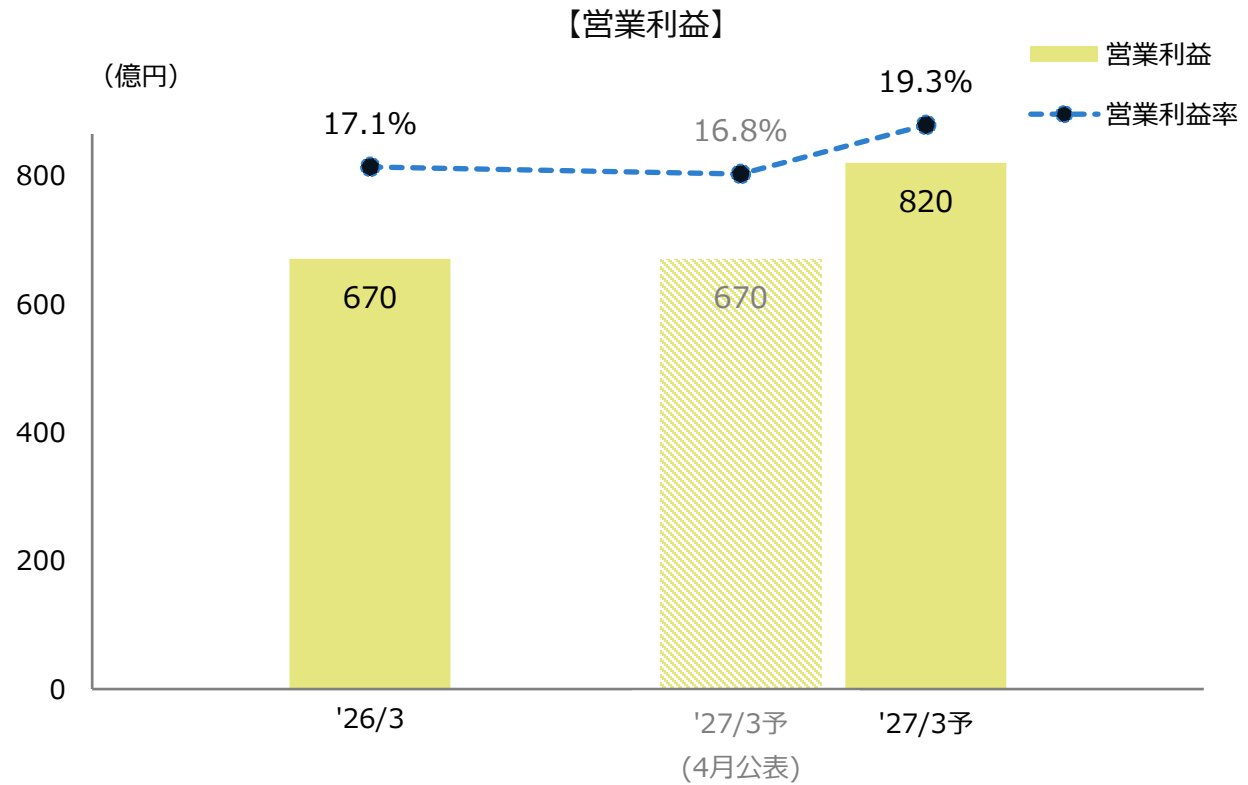
自動車関連

■ 自動車市況は中国市場を始め弱さが見られるものの、上期の米国市場向けの出荷物量増加、円安影響、費用減を織り込み、通期は4月公表値に対して増収・増益の見通し。排ガス規制強化に伴い、ガソリンセンサーは27年度に欧州で需要本格化。GPFの米国規制導入は、当初見込みから2年程度遅れ、29年度頃の見通し。

産業プロセス

■ 医薬用水向け膜設備の安定的な需要の取り込みに加え、電子部品向け耐火物製品の増加により、4月公表値に対して増収・増益の見通し。





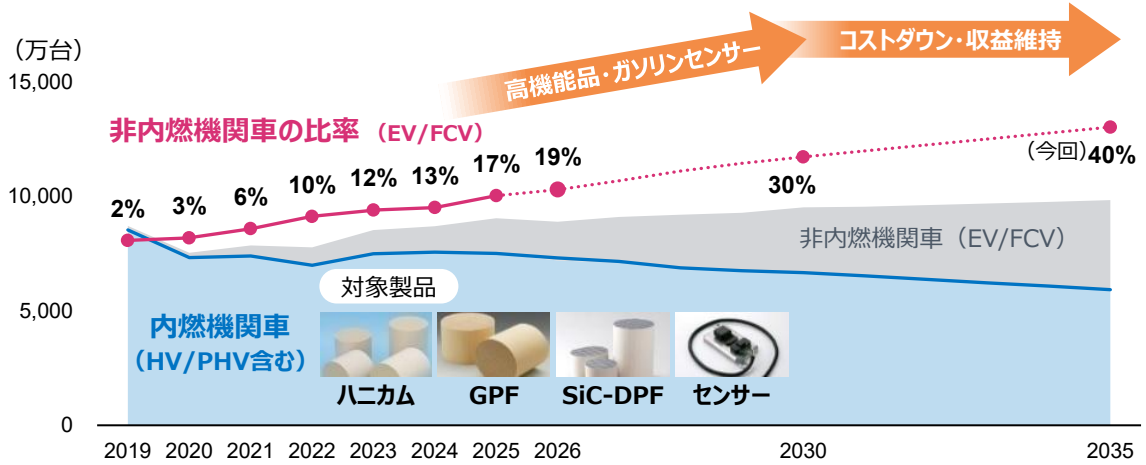
※2027年３月期の期首より事業セグメントを変更し、産業プロセスのEP系列をエンバイロメントからエネルギー＆インダストリーに移管しています。この変更に伴い2026年３月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

エンバイロメント(EN)事業の展望

■ **EV化は当社想定通りに進展する中で、内燃機関車の需要は継続。ガソリンセンサー等の新製品や高機能品を投入、既存のリソース内で付加価値を最大化し、中長期において安定的にキャッシュを創出する。**

乗用車販売台数 見通しと当事業成長イメージ（当社前提）



各国の乗用車の規制動向 見通し（当社前提）

市場	2022	2023	2024	2025	2026	…	2030	…	2035
日本	PPNLT（WLTC）				GE/GDI・MPI RDE規制				
欧州	EU6d-Full				センサー		EU7		
米国	Tier3 LEV Ⅲ			米国規制は約2年導入遅れ			PM1mg GPF		Tier4（PM0.5mg）
中国	国6a（全土）			国6b（全土）			国7		
インド	BS6 Stage Ⅰ		BS6 StageⅡ				BS7		
タイ	EU4			EU5			EU6b		

データセンター向けディーゼル発電機用DPF搭載黒煙除去装置

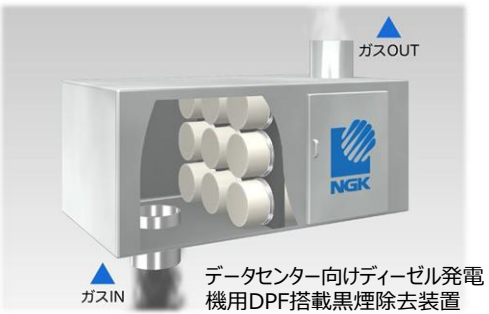


データセンター投資の拡大と黒煙問題

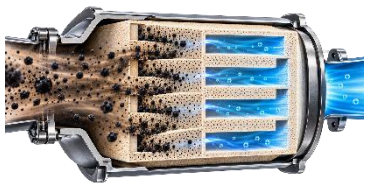
- 国内外で大規模なデータセンター（DC）の建設。
- 停電対策として、非常用ディーゼル発電機の導入が増加。
- ディーゼル発電機から排出される黒煙により、生活環境への影響への懸念が増大。

自動車のディーゼルエンジン向けで実績のある高性能セラミックフィルターを搭載

- ディーゼル・パティキュレート・フィルター（DPF）を搭載した黒煙除去装置を開発。
- 地域との共生を重視するDC事業者や産業施設に向けて、信頼性の高いソリューションを提供。
- 発電機上部に直接設置できるコンパクト設計で、都市部や環境配慮が求められる施設に最適。



データセンター向けディーゼル発電機用DPF搭載黒煙除去装置



DPFによる黒煙除去の様子（イメージ）
図は生成AIにより当社作成

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

デジタルソサエティ(DS)事業の今期見通し

半導体製造装置用製品（SPE）

- AI向け先端半導体の関連需要が引き続き拡大。インフレによる費用増や品種構成の変化はあるものの、4月公表値比で増収・増益。更なる成長に向けて、積極的な投資を継続していく。

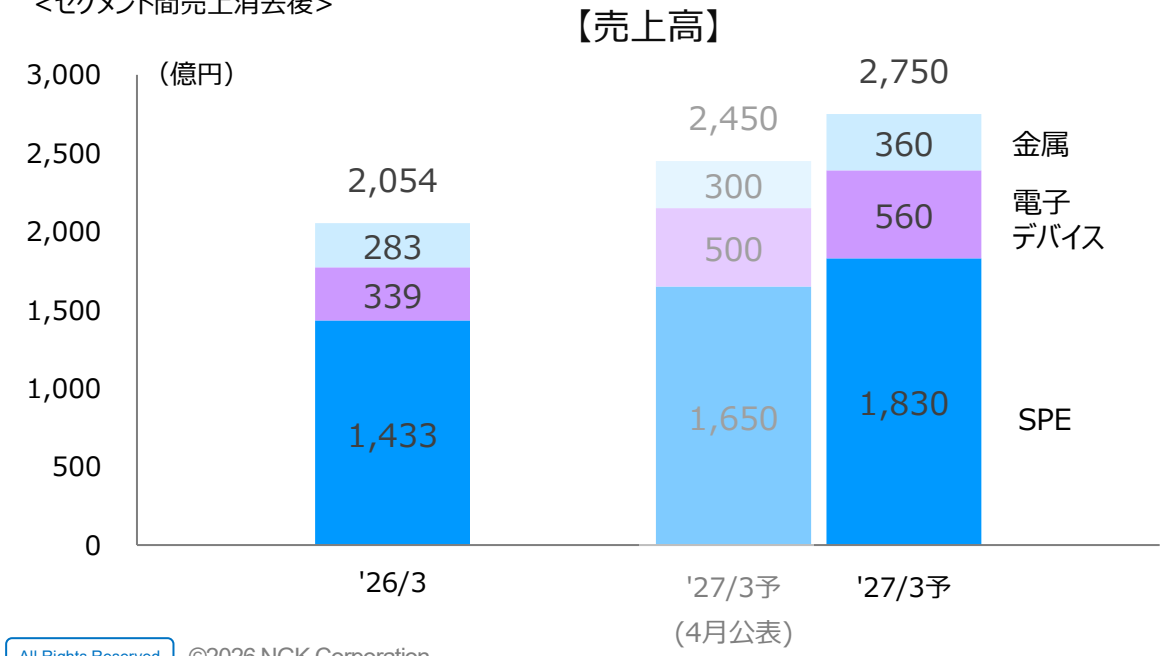
電子デバイス

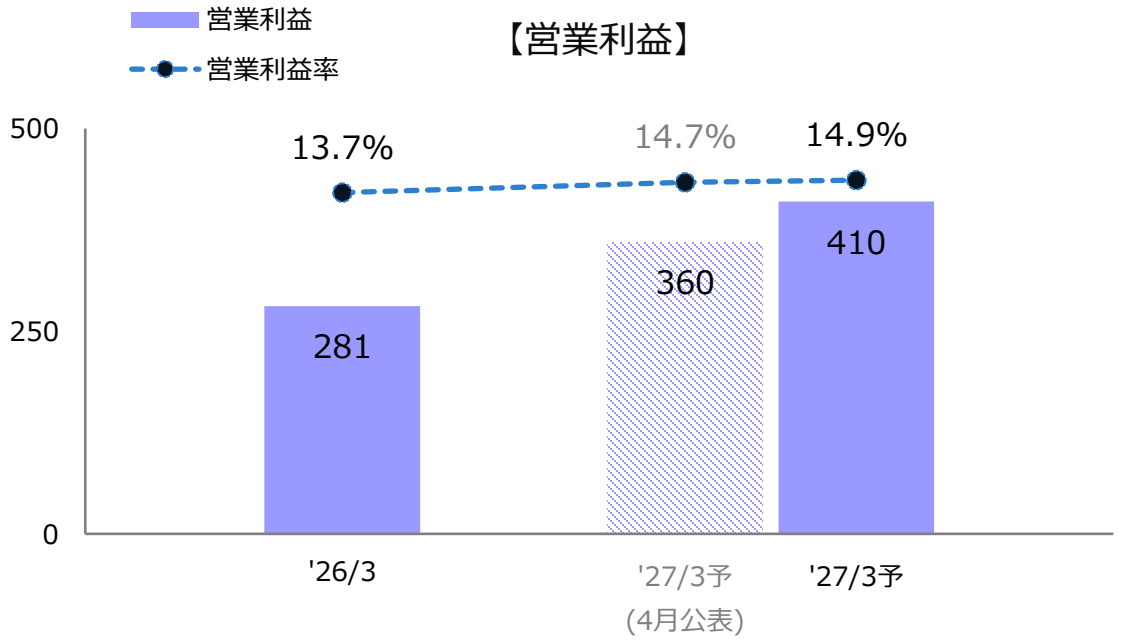
- HDD用圧電素子は、データセンター投資の拡大基調が継続。
- ハイセラムキャリアは、AIサーバー用高性能GPU需要は強く、増産投資の立上げにより需要を取り込む。
- セラミックパッケージは、市場環境は堅調も、インフレによる費用増もあり赤字は継続。価格改定、小型品等の新規認定取得を継続して進めていく。

金属

- 半導体・通信分野を中心に需要が増加。適正な収益確保に向け、価格改定を進める。

<セグメント間売上消去後>





All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

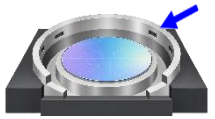
半導体製造工程向け製品群と成長戦略

- 高性能化（微細化・高集積化）するAI向け半導体製造を支える製品群を展開。
- AI向け高性能半導体の持続的な需要拡大を見据えた生産能力増強と、製品・用途領域の拡大により、更なる成長を図る。

半導体製造工程

生産体制を強化中

SPE



チャンバー部材
（アルミ・溶射材）

先端プロセスの安定生産に貢献

半導体領域の成長戦略

既存領域の深耕
既存事業の成長機会を捉え、
生産能力の増強を積極的に実施

×

成長領域の拡張
保有技術を活用した新製品の創出・
既存製品の用途拡大

前工程						中・後工程			実装
シリコンウエハー	成膜	露光	エッチング	イオン注入	検査	ダイシング	チップレットなど	最終検査	基板実装

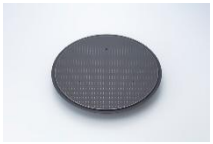
SPE



セラミックヒーター

回路微細化の実現に貢献

SPE

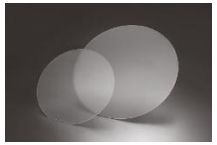


静電チャック

回路の高集積化実現に貢献

石川工場の新設を含む、生産能力の更なる拡充

電子デバイス



ハイセラムキャリア

先端パッケージの安定生産に貢献

パネル型、メモリ向け用途への開発を推進

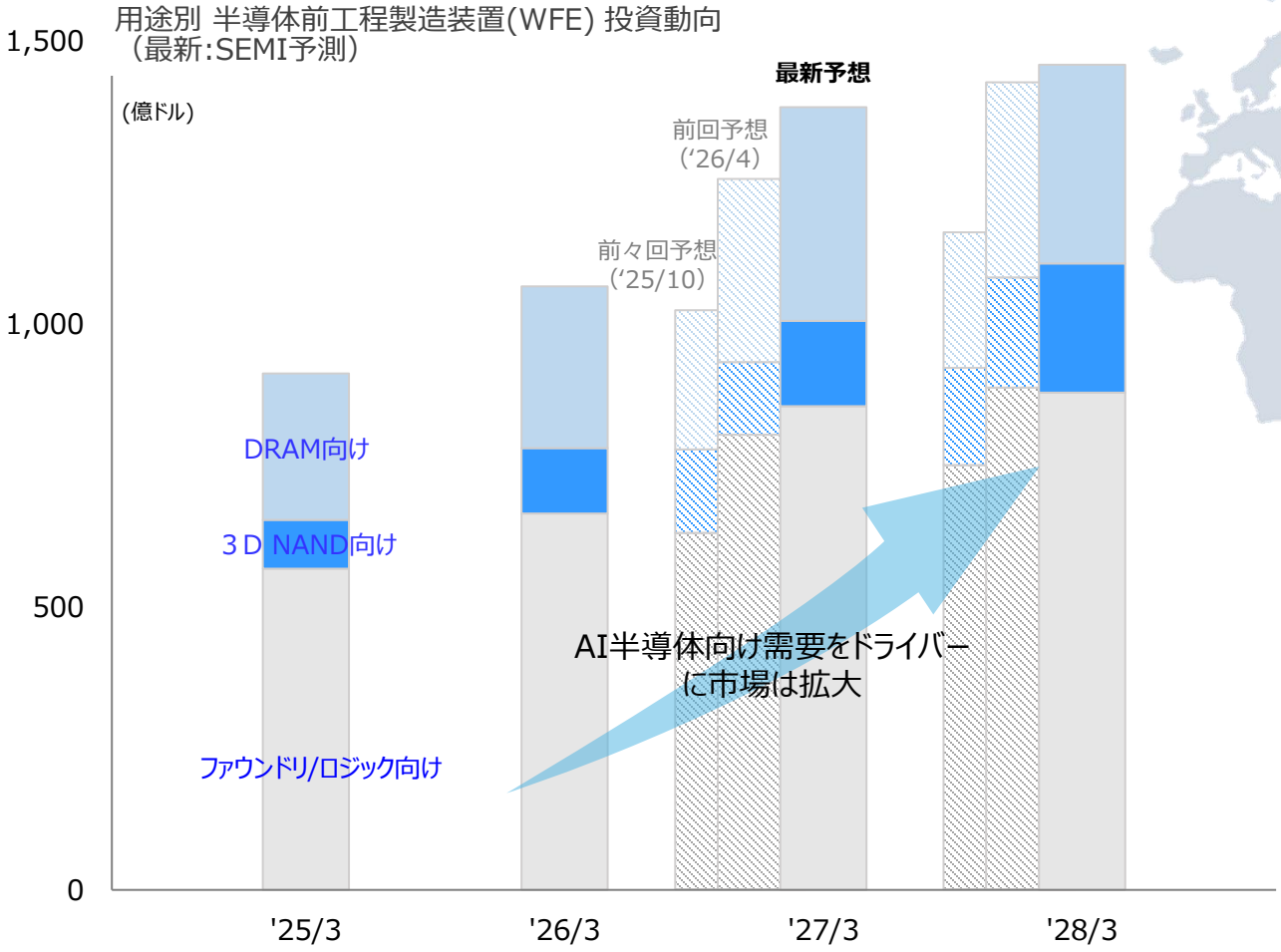
All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

一部の図は生成AIにより当社作成

半導体製造装置用製品（SPE）の市況と当社の対応

■ AI半導体向け需要の拡大を捉え、国内外で生産能力を増強。公表済みの設備投資に加え、既存各工場の稼働最大化、人員・設備の増強を進める。中長期的な需要の拡大を見据えたさらなる供給能力の拡充も検討。

■半導体製造装置用製品（SPE）事業の市場環境

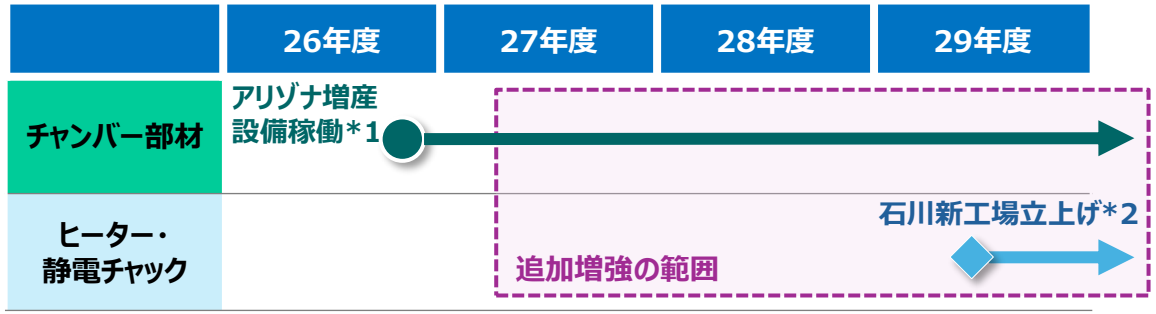


■半導体製造装置用製品（SPE）事業の生産拡大



図は生成AIにより当社作成

＜設備投資稼働スケジュール＞



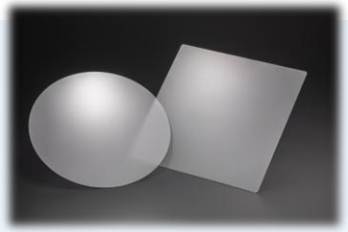
*1 2025年10月31日リリース 半導体製造装置部品の米国生産拠点を増強
https://www.ngk.co.jp/news/2025/20251031_5.html

*2 2026年4月24日リリース 半導体製造装置用セラミックスの生産能力を増強 石川県能美市に新生産拠点の設立を決定
https://www.ngk.co.jp/news/2026/20260424_1.html

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

ハイセラムキャリアの用途拡大

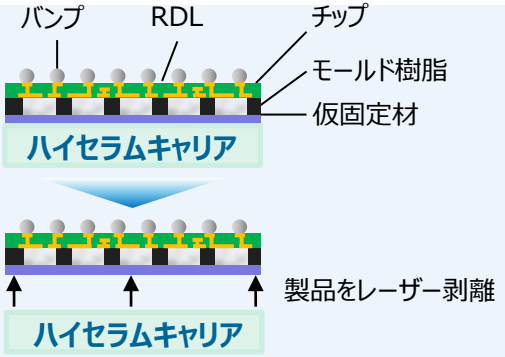
■ 半導体の製造プロセスの変化を捉え、パネル型、メモリ向け用途への開発により、更なる成長を図る。



ハイセラムキャリア
半導体の進化を支える
高機能セラミックスキャリア

ハイセラムキャリアの特長

高剛性	加工時に基板の平坦性が維持され、反り・歪みを抑制
耐薬品性	耐薬品性により製造での繰り返し利用が可能に
透光性	レーザー剥離工程に対応することで配線形成後の剥離が容易に

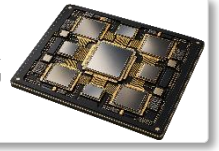


半導体の進化に伴う製造プロセスの変化

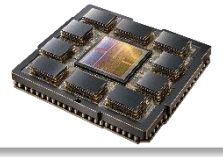
微細化 高集積化



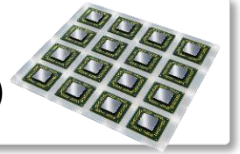
チップレット化



先端実装 高度化



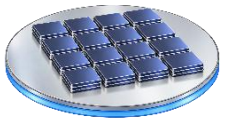
大面積化 (パネル化)



AI半導体の高集積化・高性能化に伴い、キャリアへ求められる性能も高度化

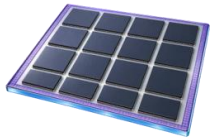
ハイセラムキャリアの用途展開

現在：主要用途



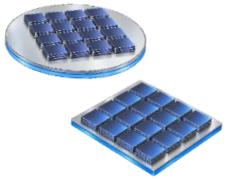
ロジック向け
(ウエハー型)
先端ロジックの
量産工程で使用

サンプル出荷：製品形状の展開



ロジック向け
(パネル型)
大面積・高生産に対応
する次世代プロセスに対応

サンプル出荷・高精度化中：用途拡大



メモリ向け
高精度の平坦性を要求。
高まるHBM需要に対応。

お客様への提供価値

■ 反り・破損の低減により製造工程を安定化し、歩留まり・品質の向上に貢献。
■ 高精度品・パネル型への展開により、次世代半導体の高性能化と量産を支援。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

図は生成AIにより当社作成

エネルギー&インダストリー(E&I)事業の今期見通し

がいし

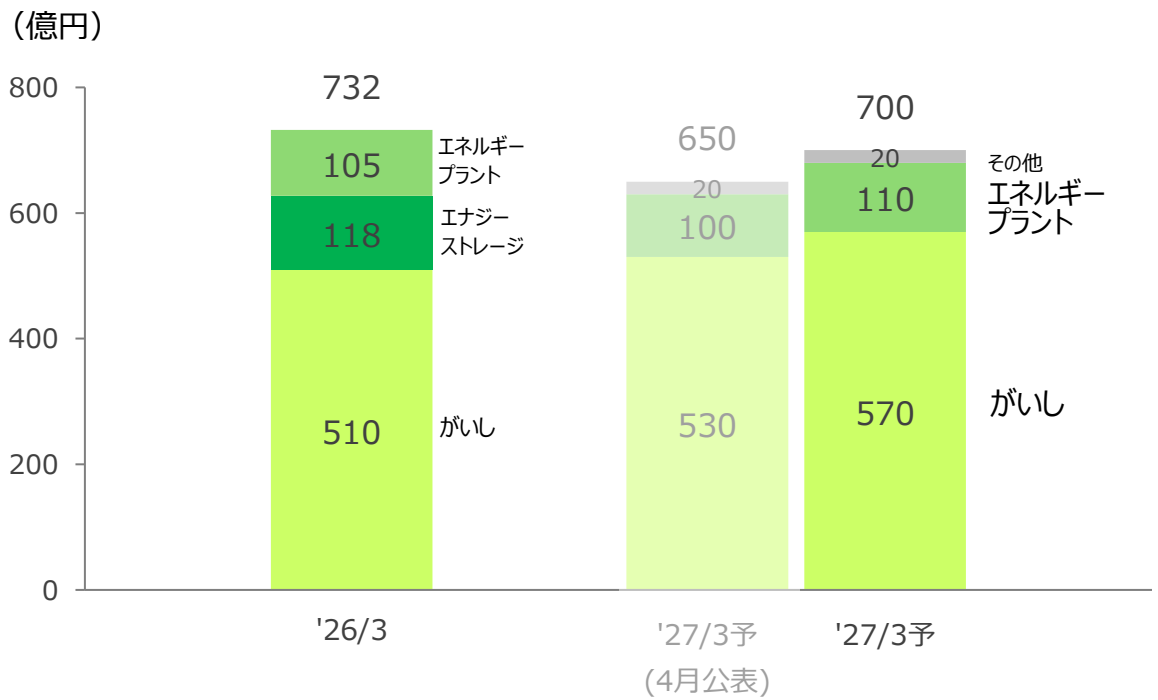
■ データセンター投資の拡大等を背景に米国の送変電設備が増強され、がいし製品の需要が増加。
知多事業所の変電がいし製品生産終了に向けた対応も進展し、関連費用は想定を下回る見込み。将来発生が見込まれる費用等を営業外費用として計上。

エネルギープラント

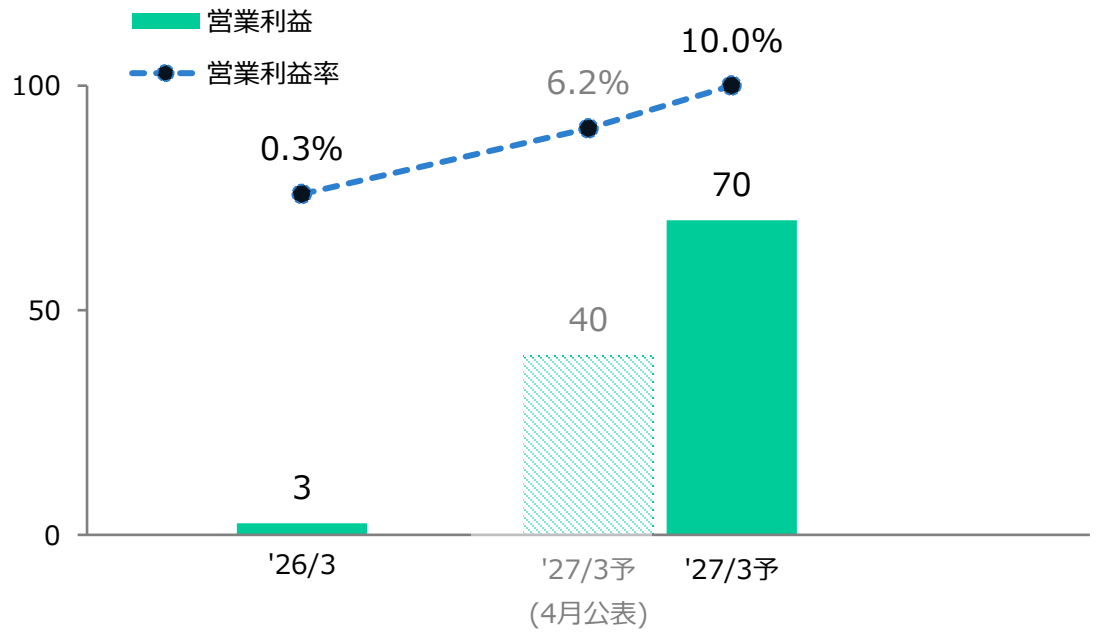
■ 既設案件の更新需要及びメンテナンスを中心に、4月公表値から増収。利益は変更なし。

<セグメント間売上消去後>

【売上高】



【営業利益】



※2027年３月期の期首より事業セグメントを変更し、産業プロセスのEP系列をエンバイロメントからエネルギー＆インダストリーに移管しています。この変更に伴い2026年３月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。

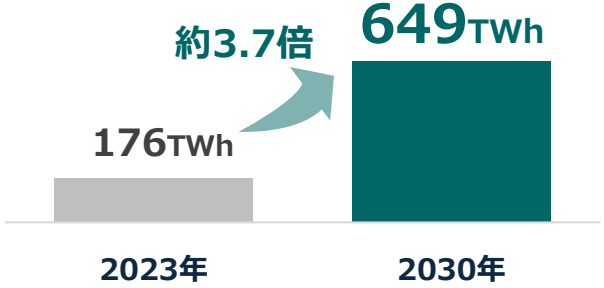
All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

米国のデータセンター投資拡大による送変電設備需要の増加

■ **米国では郊外への大型データセンター新設に伴い、高圧送電線・新変電所の建設需要が拡大。**
高圧送電線用ポリマーがいし・変電所向けの磁器がいしの需要増を取り込み、収益基盤の強化を図る。

米国：データセンター投資の拡大と電力需要の増加

① データセンターの電力需要の推計



② 立地の特徴

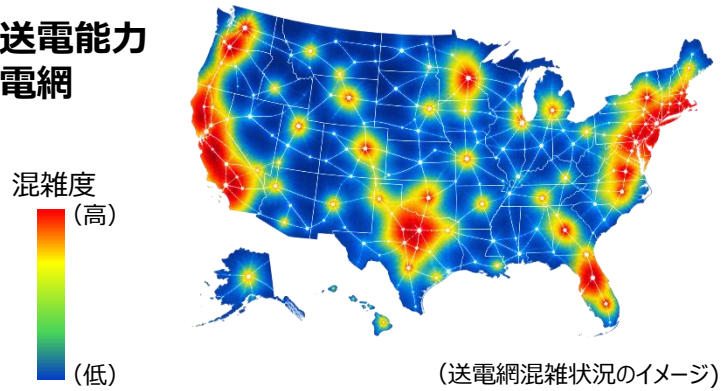
- ◆ 郊外の大型キャンパス型で立地
- ◆ 国土が広く、用地制約が小さい
- ◆ 電力系統への新規接続が必要
- ◆ 新規送電ルートの建設（長距離・広域）



（米国のデータセンターのイメージ）

③ ボトルネック：電力インフラの制約

- ◆ **地域間送電能力**
- ◆ **広域送電網**

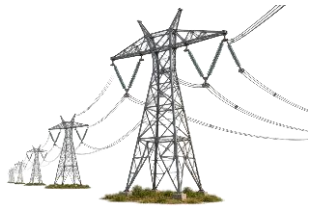


（送電網混雑状況のイメージ）

④ 主な設備投資需要

- ◆ **高圧送電線の新設**
- ◆ **新変電所の建設**

がいし需要への影響大



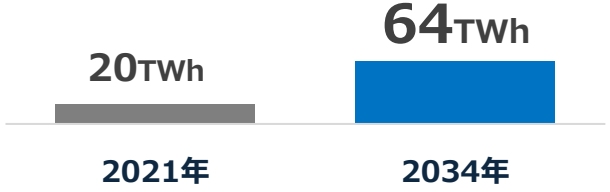
（高圧送電線新設のイメージ）



（変電所新設のイメージ）

日本：データセンター投資拡大も、既設設備の活用が中心

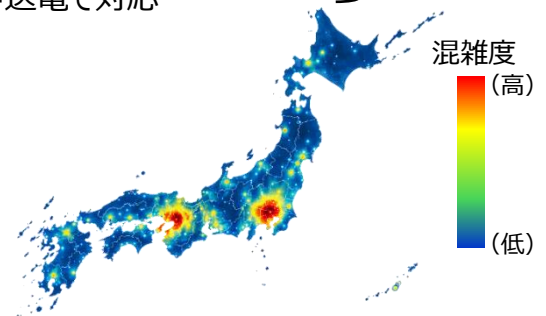
① データセンターの電力需要の推計



② 立地の特徴・設備投資需要

- ◆ 投資は首都圏・関西圏に集中
- ◆ 国土が狭く、用地制約が大きい
- ◆ 既設変電所の増強・改良
- ◆ 地中送電で対応

がいし需要への影響は限定的



（送電網混雑状況のイメージ）

出所：データセンターの電力需要の特徴に関する考察と将来推計―2025年度版OCCTO 供給計画を用いて―
United States Data Center Energy Usage Report: 2025 Update | Energy Technologies Area
より当社推定。図は生成AIにより当社作成。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

事業ポートフォリオと事業再生・撤退検討プロセス

■ 高収益事業による安定的なキャッシュ創出を基盤に、成長領域への資源配分と事業再編を通じて、成長性・資本収益性を向上させることで、上昇する資本コストを継続的に上回り、エクイティ・スプレッドを拡大させる。

	DS領域（デジタル社会）	既存領域	CN領域（カーボンニュートラル）
事業セグメント	デジタルソサエティ 半導体、情報通信など	エンバイロメント 自動車、産業機器など	エネルギー&インダストリー 電力インフラなど
事業	SPE（半導体製造装置用製品） 電子デバイス 金属	自動車関連 産業プロセス がいし	エネルギープラント CN事業推進
	投資拡大・成長牽引 需要増を見据えた事業拡大を通じて全社の成長を牽引	**収益最大化** 事業構成転換に向けた投資の原資を確保	**事業創出** ビジネスモデル設計、技術深化と事業開発を強化

事業構造改革

対象事業・製品	主な取り組み
セラミックパッケージ	■ 今年度より事業体制の再編を実施。固定費削減に加えて、高付加価値製品への注力を進め、収益性改善を目指す。
絶縁放熱回路基板	■ EV市場の成長鈍化による事業環境の悪化を踏まえ、事業のあり方を抜本的に見直し中。

‘26年度導入

事業再生・撤退検討プロセス

戦略会議
- 判断期限
- 意思決定指標
- 意思決定ツリー

グルーピング／スクリーニング

定期フォローアップ
対象事業・製品
- セラミックパッケージ
- 絶縁放熱回路基板

改善

未達

再編・撤退判断

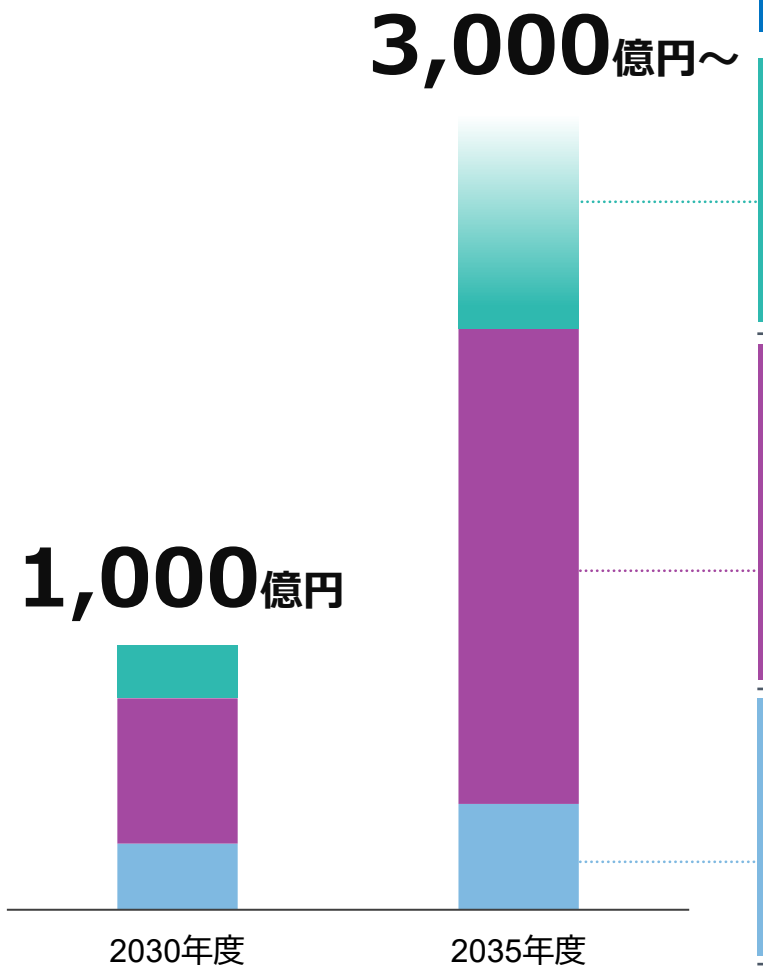
事業売却、部分撤退
全面撤退…

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

New Value 1000 から New Value 3000 へ

- DS領域を中心に、新事業化品※の売上高として2030年度1,000億円、2035年度3,000億円超に挑戦。
- CN領域ではソリューション事業と2035年以降に本格化する製品により貢献。

想定売上高



	製品候補（一例）		2030年度期待売上高
CN	環境・分離・回収	DAC （Direct Air Capture）、サブナノセラミック膜（CO_2） etc.	100億円～
	エネルギー	エネルギーソリューションビジネス、脱水膜、核融合向けベリリウム部材、 etc.	
DS	データセンター	次世代HDD向け部品、光電融合向け複合ウエハー、半導体パッケージ用コア基板、高放熱部材 etc.	250億円～
	半導体製造	ハイセラムキャリア、SPE向け部品 etc.	
環境その他	環境	ガソリンセンサー etc.	250億円～
	その他	有機化合物結晶探索サービス etc.	

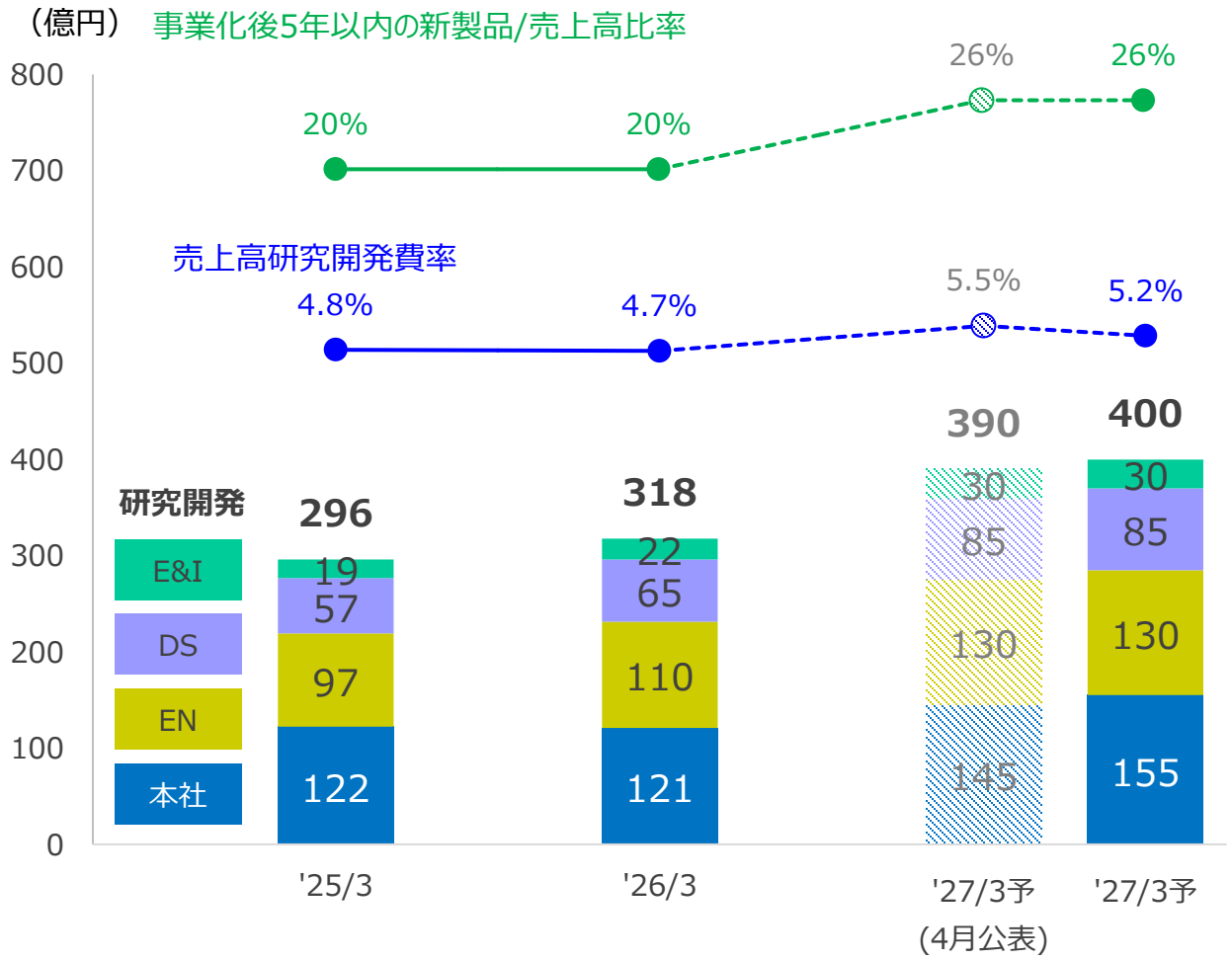
※2021年度以降に新しく事業化した製品

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

研究開発費・設備投資・減価償却費

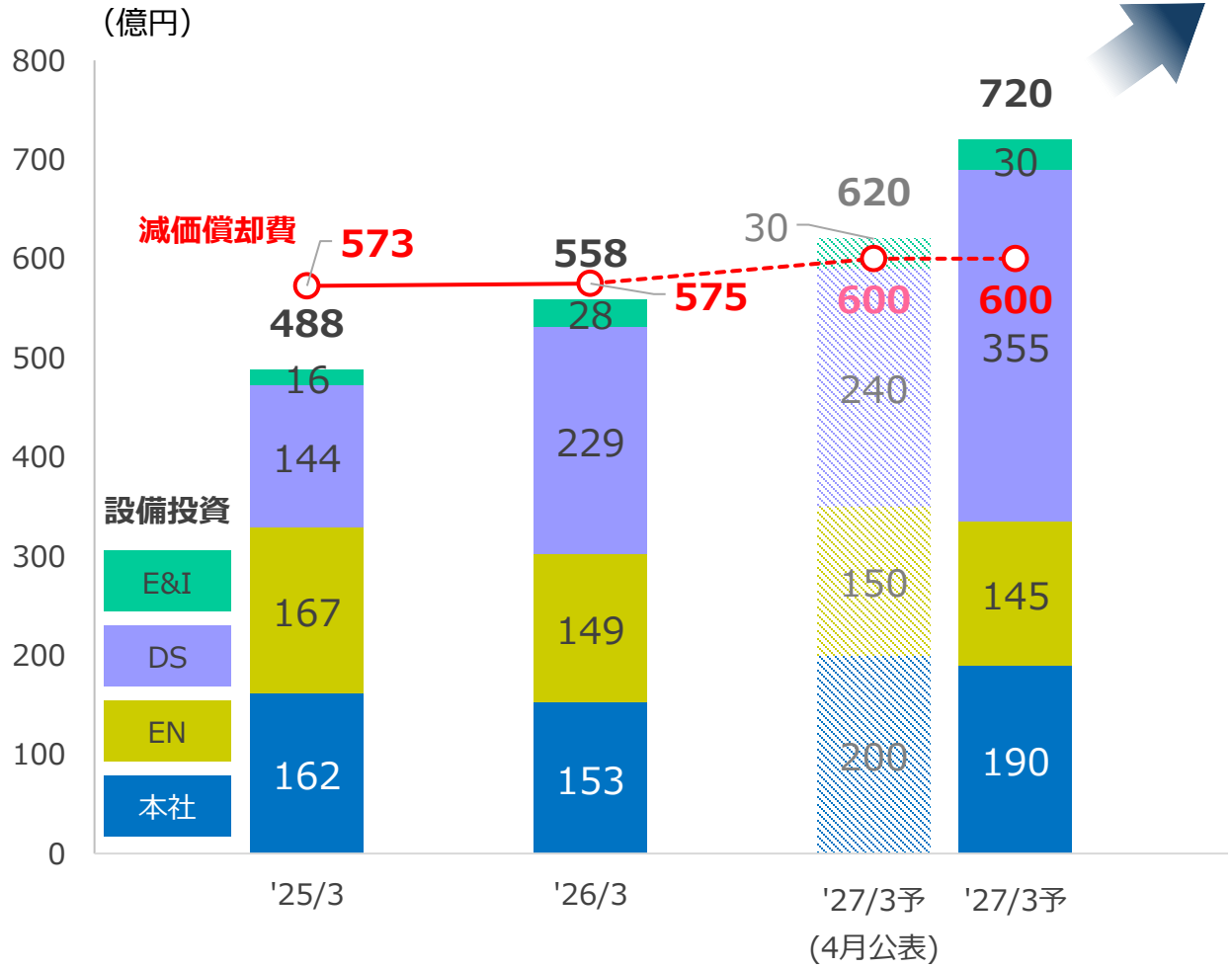
研究開発

- CN・DS関連を中心に過去最高の研究開発費を見込む。
- マーケティング部門・研究開発部門・製造技術部門が連携し、各テーマの新商品開発を着実に進め自社技術を高めるとともに、外部からの技術やリソースを積極的に獲得していく。



設備投資・減価償却費

- 27年3月期は、デジタルソサエティ事業の増産投資を中心に720億円の投資に上方修正。
- デジタルソサエティ事業を中心とした中長期的な需要増加対して、投資を速める。



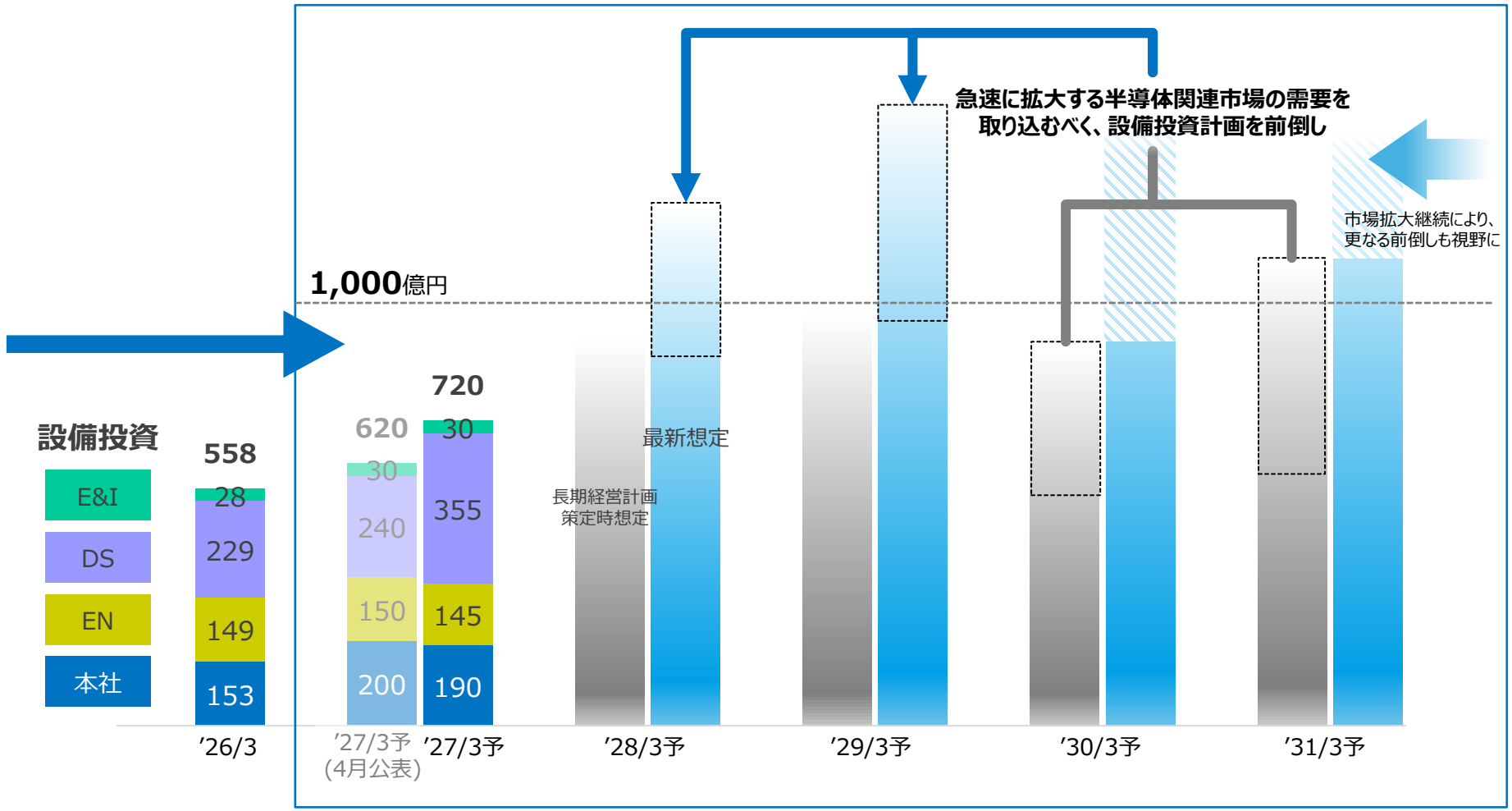
All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

設備投資（今後の見通し）

■ 27年3月期は、デジタルソサエティ事業の増産投資を中心に設備投資額を720億円に上方修正。
■ 急拡大するデジタルソサエティ事業の需要を捉え、長期経営計画で示した設備投資を前倒し。
財務規律を維持しながら、成長需要の早期取り込みと売上・利益の拡大を図る。

2026～2030年度
（累計計画）

キャッシュ・イン	キャッシュ・アウト
研究開発費支出前営業CF＋借入ほか 1兆円～	研究開発費 2,000億円
	設備投資 4,500億円
	戦略投資 株主還元ほか 3,500億円



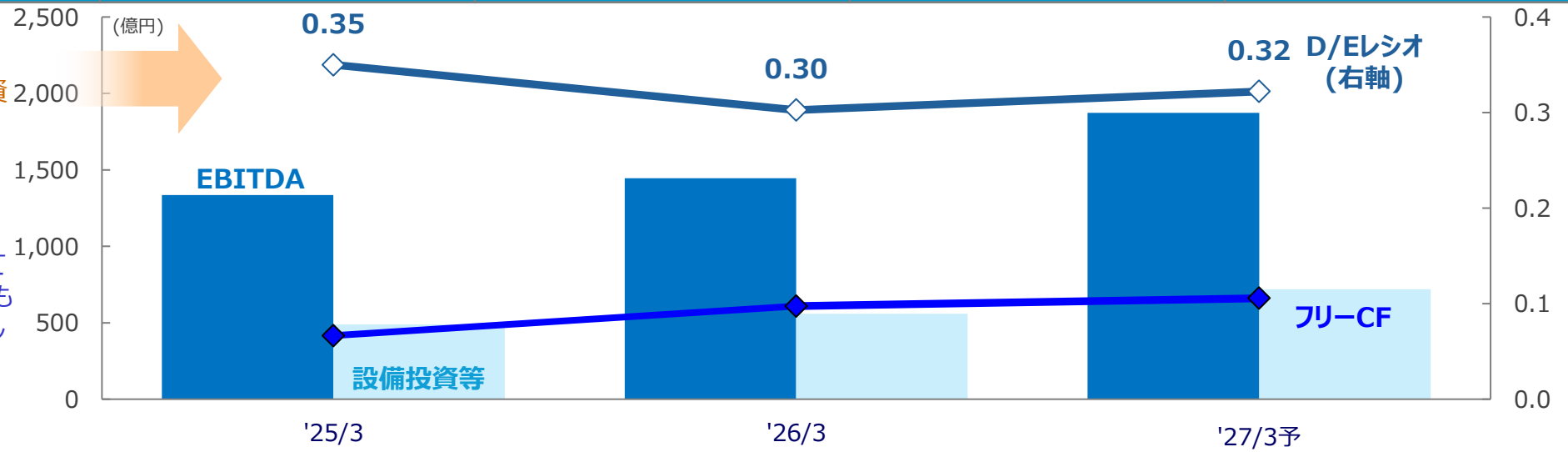
All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

要約キャッシュフロー

(億円)	’25/3	’26/3	’27/3（予）	
			4月見通し	今回見通し
営業キャッシュフロー	967	1,380	1,260	1,260
投資キャッシュフロー	△551 設備投資支払△437	△771 設備投資支払△555	△660 設備投資支払△620	△600 設備投資支払△720
財務キャッシュフロー	△342 新規借入＋251 返済△318 自己株買付△94	△483 新規借入＋400 返済△514 自己株買付△150	△682 新規借入＋300 返済△391 自己株買付△330	△322 **新規借入＋700** 返済△406 自己株買付△310
換算差額等	△11	93	0	△54
現金及び現金同等物の増減	63	219	△82	284
現金及び現金同等物期末残高	1,777	1,996	1,915	2,280

D/Eレシオ0.3を軸に
資金を成長分野に投資

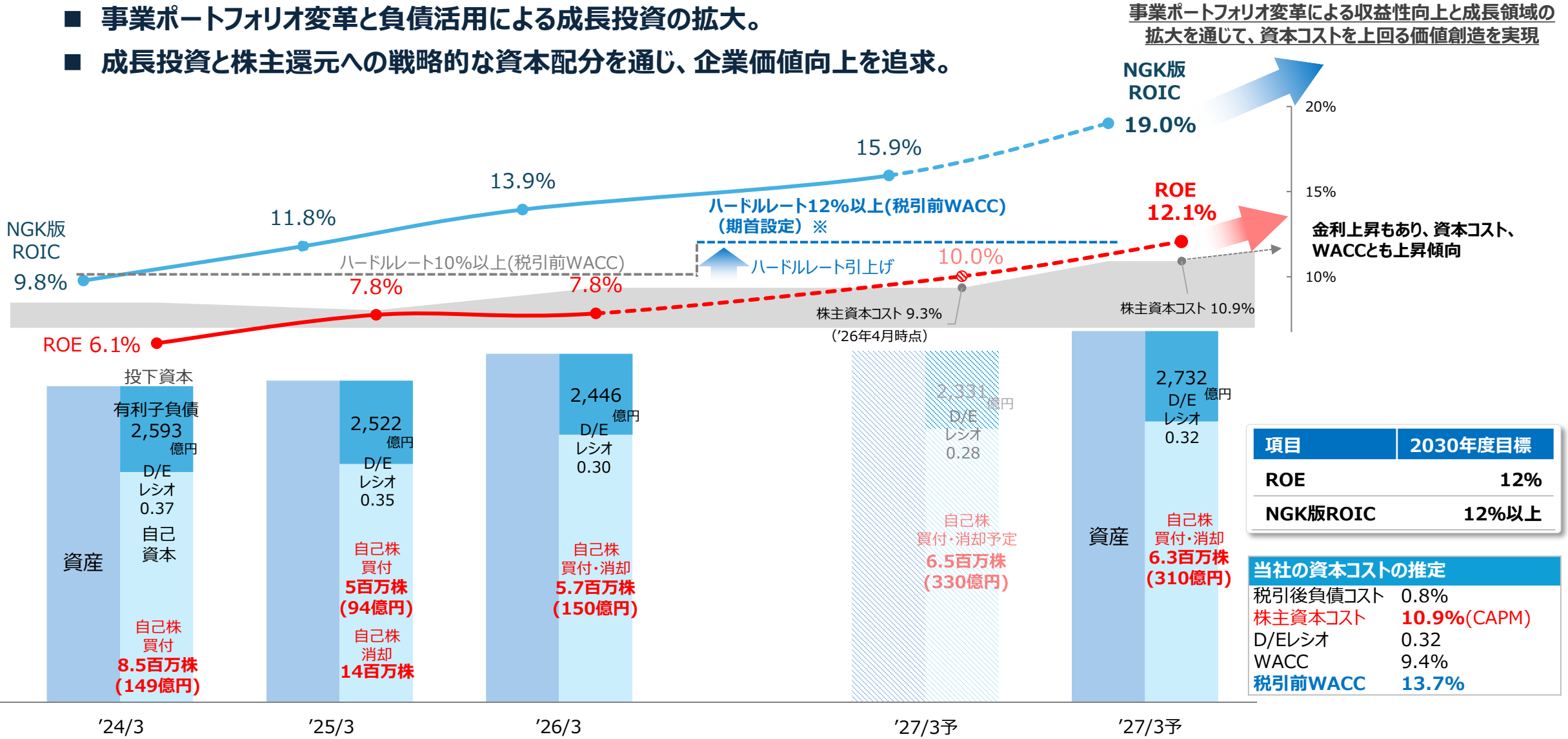
フリーCFは、
成長分野のDSや
新規事業創出に向けて
積極的に投入しながらも
プラスで推移する見通し



All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

資本政策

- 資本コストを上回る収益性の持続的な確保。
- 事業ポートフォリオ変革と負債活用による成長投資の拡大。
- 成長投資と株主還元への戦略的な資本配分を通じ、企業価値向上を追求。



項目	2030年度目標
ROE	12%
NGK版ROIC	12%以上

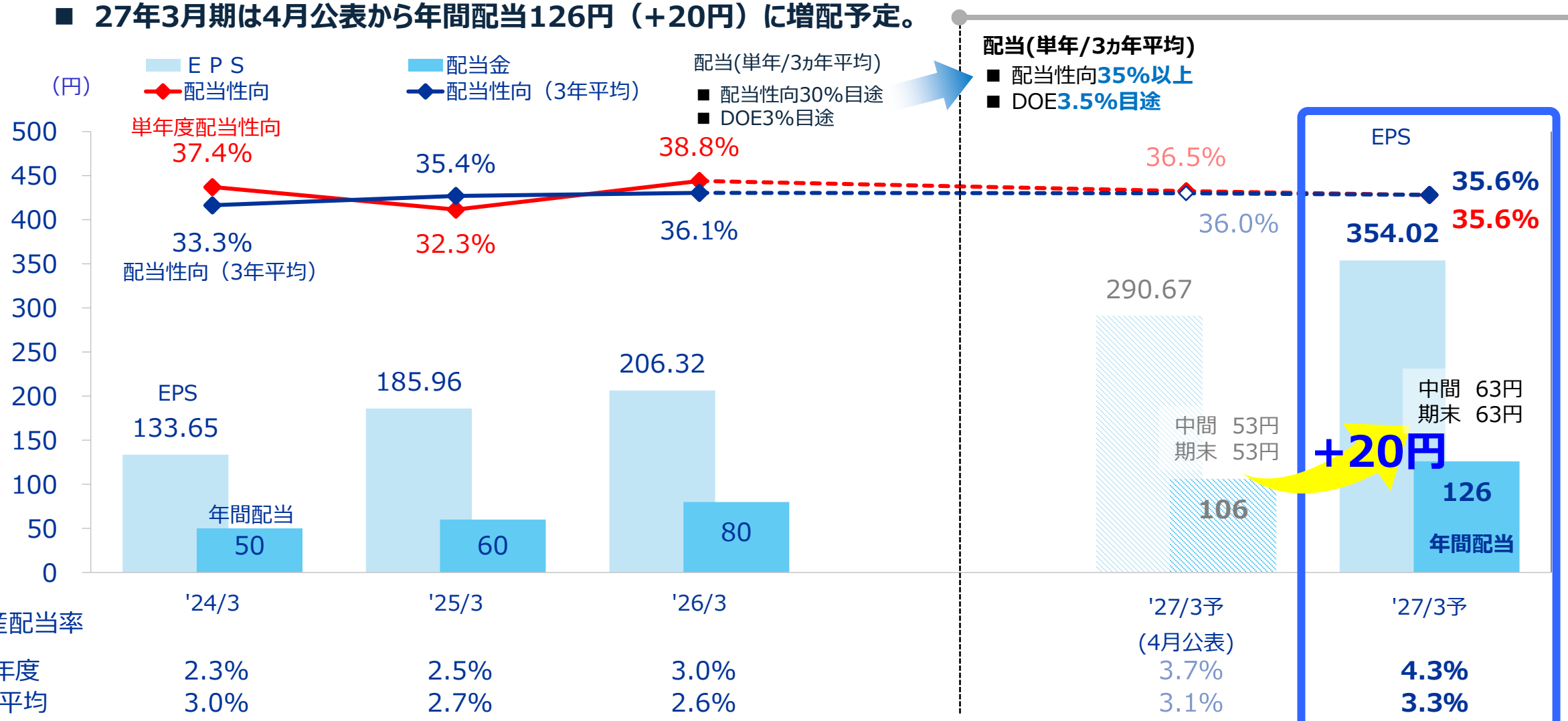
当社の資本コストの推定	
税引後負債コスト	0.8%
株主資本コスト	**10.9%**(CAPM)
D/Eレシオ	0.32
WACC	9.4%
税引前WACC	**13.7%**

※期首時点の税引前WACCを基に設定。ハードルレートは据え置き、資本コストの動向を注視。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

配当

- 持続的な企業価値の向上に資するよう事業リスクの変化に適合させつつ、3年程度の期間業績(ROE)とのリンクも勘案。
- 配当方針は配当性向35%以上、純資産配当率3.5%目途。
- 27年3月期は4月公表から年間配当126円（+20円）に増配予定。



All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

営業CF・有利子負債を活用した成長投資・株主還元の好循環

- 既存事業が創出する営業キャッシュフローを主な原資に、成長投資と株主還元を両立。
- D/Eレシオ0.3を目途とする財務規律のもと、有利子負債を戦略的に活用し、成長投資に対応。
- 翌年度以降に増加する設備投資と金利上昇局面を見据え、資金を前倒しで確保。

◆ フリーキャッシュフロー拡大による企業価値向上サイクル

更なる成長投資へ
優先的に配分

健全な財務基盤を活かした資金調達
急拡大する投資機会を逃さない資金の先行確保
戦略投資を支えるデッドキャパシティの活用。
27年3月期（予） 資金調達 700億円

既存事業からの潤沢な営業キャッシュフロー
エンバイロメント事業を中心とした安定的
かつ高い利益を生み出す収益基盤。
27年3月期（予）研究開発費支出前
営業CF 1,660億円

営業キャッシュフロー拡大
DSを中心とする成長投資の効果刈取り、
EN、E&Iの収益性向上により、
キャッシュ創出力を強化。

戦略的資本配分

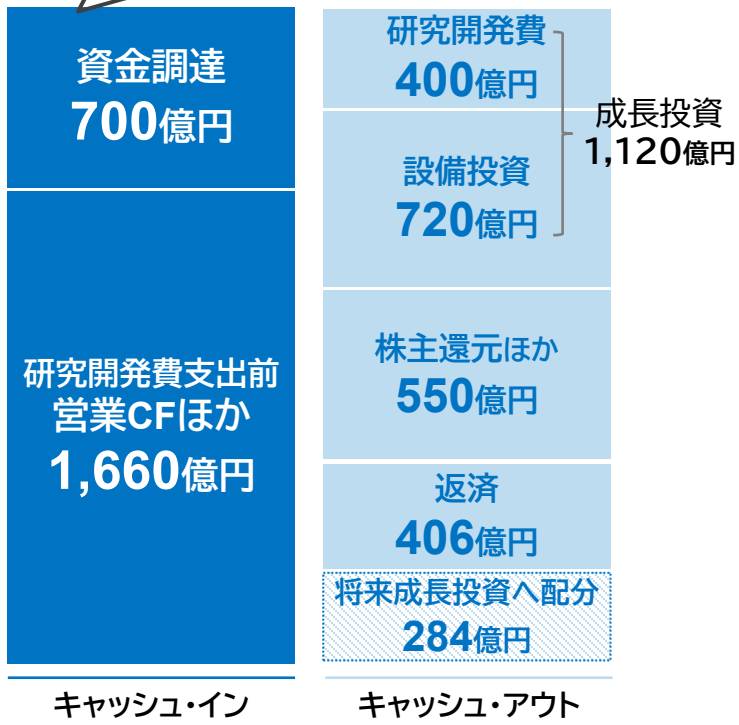
配当性向35%以上
DOE 3.5%目途

成長投資
旺盛な投資需要を捉え、DS事業を中心に生産能力・競争力を強化。
急拡大する需要に追従すべく、長期経営計画で示した設備投資を前倒しで対応。

27年3月期（予）
成長投資 1,120億円

格付投資情報センター（R&I）
債券格付 AA-（26年8月格上げ）

社債 200億円程度 ＋ 借入金 500億円程度



27年3月期(予) キャッシュアロケーション

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

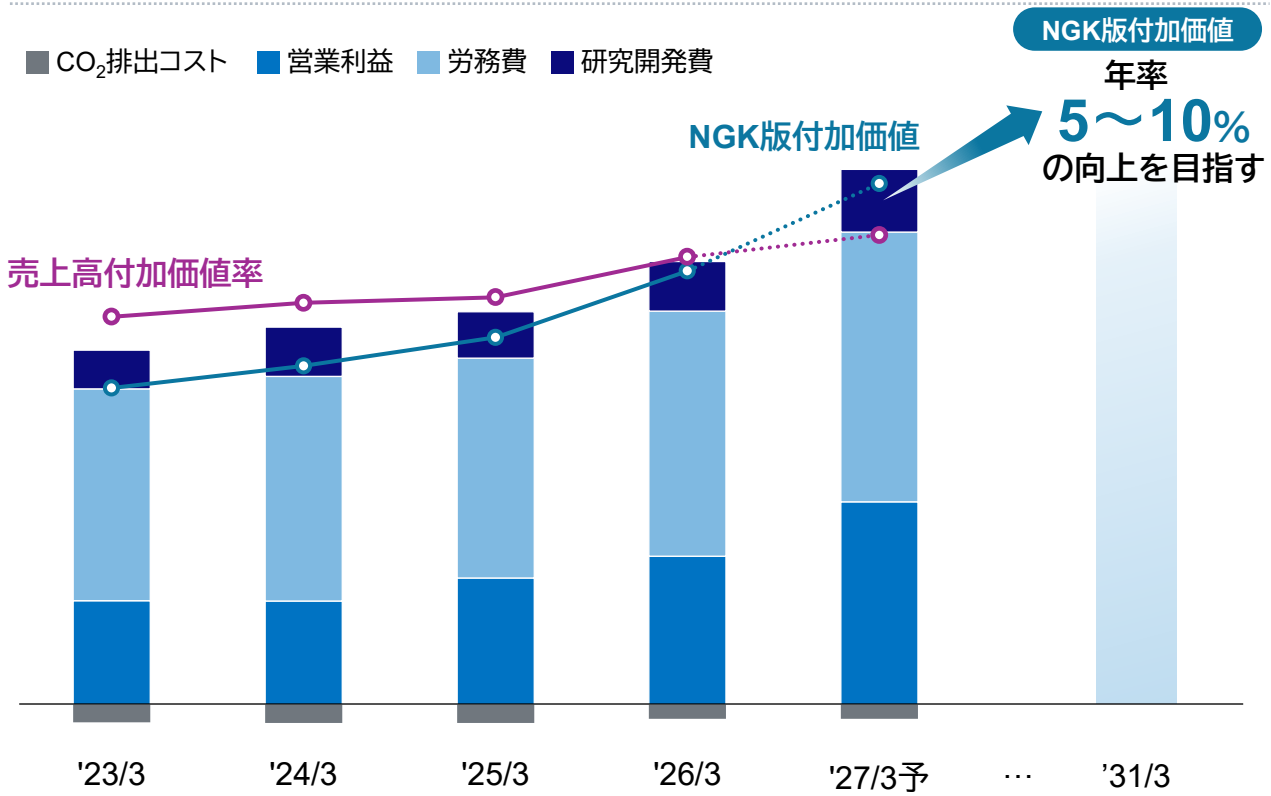
NGK版付加価値の拡大と挑戦する企業文化の醸成

- 営業利益の持続的成長と研究開発・人的投資・環境負荷低減を両立し、財務・非財務両輪で企業価値向上を図る。

NGK版付加価値（NGK Value-added）

＝（営業利益 − CO_2排出コスト※ ＋ 労務費 ＋ 研究開発費）× ESG目標達成率

（営業利益 − CO_2排出コスト※）：短期の収益性
（労務費 ＋ 研究開発費）：中長期の成長性



挑戦する企業文化の醸成

従業員エンゲージメント「挑戦」スコア	2025年		2030年目標	
	3.3	→	3.8	へ改善

▶経営層のコミットメント強化

役員報酬の業績連動賞与の評価軸に、**今年度より新たに従業員エンゲージメント向上、NGK版付加価値向上 等を追加**。
持続的な成長に対する行動を促進する。

▶ポートフォリオ転換への挑戦を後押しする人事制度の充実化

- **2024年6月　新規事業提案プログラムを開始**
  - ・全社員を対象に、部門を超えた共創環境を整備
- **2025年4月　基幹職人事制度を刷新**
  - ・職務・役割に応じた等級・報酬を設定
  - ・キャリアパスの複線化
  - ・社内公募拡大、スカウト制度導入
  - ・変革・挑戦を行動評価へ反映
- **2025年10月　基幹職向け株式インセンティブ制度を導入**
- **2026年10月　挑戦支援策を拡充**
  - ・「新任地挑戦支援金」を新設し、新たな環境・役割への挑戦を後押し

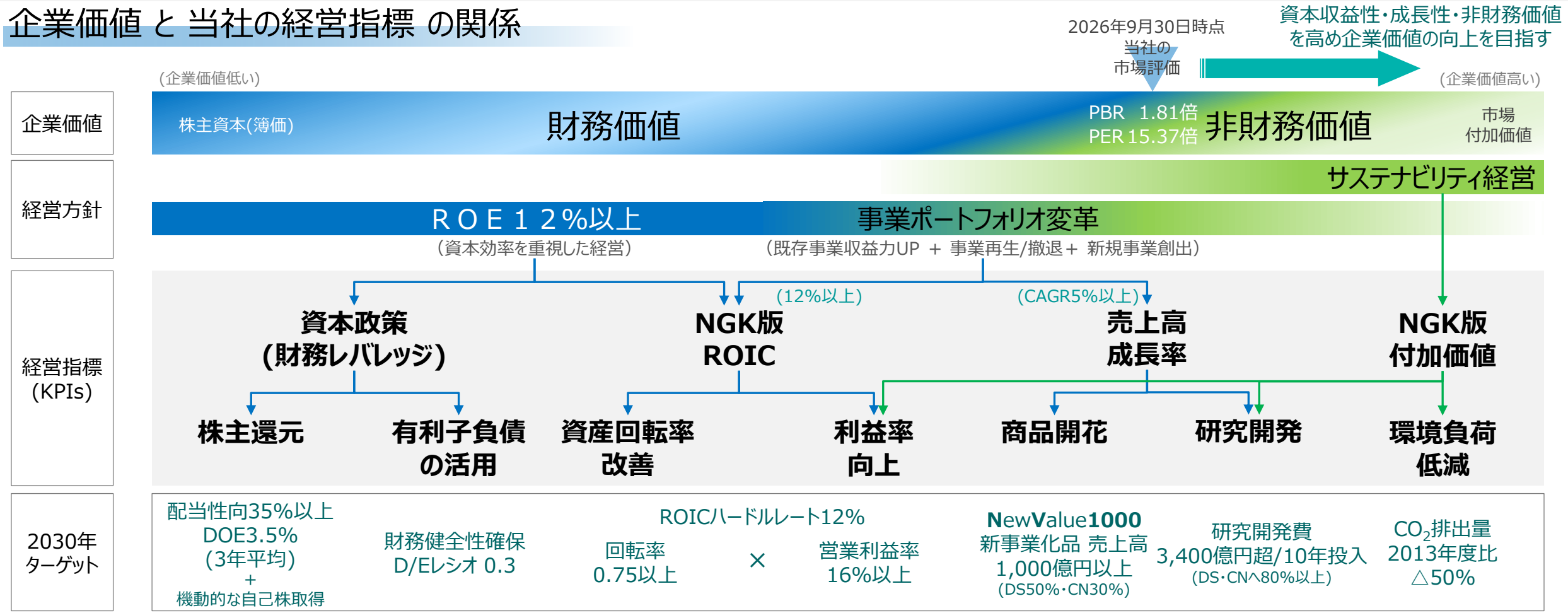
All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

企業価値向上に向けて

- エクイティ・スプレッド=ROE－株主資本コストを意識した経営で資本収益性を向上。
- 成長実現に向けた事業ポートフォリオ管理と
  知的資本(研究開発等)・人的資本への投資を推進し成長性を確保。
- 環境負荷低減・人権尊重への取り組み等により、非財務価値を高める。

当社の資本コストの推定	
税引後負債コスト	0.8%
株主資本コスト	**10.9%**(CAPM)
D/Eレシオ	0.32
WACC	9.4%
税引前WACC	**13.7%**

企業価値 と 当社の経営指標 の関係



All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

事業別 売上高（通期）

（億円）

＜セグメント間売上高消去後＞	24年3月期	25年3月期	26年3月期	27年3月期（予）
ハニカム	901	912	944	980
GPF	498	511	528	570
Cd-DPF・大型ハニカム	855	792	748	840
SiC-DPF	719	733	787	810
センサー	646	617	681	790
産業プロセス※	288	338	227	260
エンバイロメント合計	3,907	3,904	3,915	4,250
半導体製造装置用製品	865	1,138	1,433	1,830
電子デバイス	261	313	339	560
金属	256	265	283	360
デジタルソサエティ合計	1,382	1,716	2,054	2,750
エナジーストレージ	21	65	118	
エネルギープラント※			105	110
がいし	479	511	510	570
その他				20
エネルギー＆インダストリー合計	500	576	732	700
全社合計	5,789	6,195	6,701	7,700

※1　2025年３月期の期首より事業セグメントを変更し、産業プロセスをエネルギー＆インダストリーからエンバイロメントに移管しています。
この変更に伴い2024年３月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。
※2　2027年３月期の期首より事業セグメントを変更し、産業プロセスのEP系列をエンバイロメントからエネルギー＆インダストリーに移管しています。
この変更に伴い2026年３月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

事業別 売上高（上期･下期）

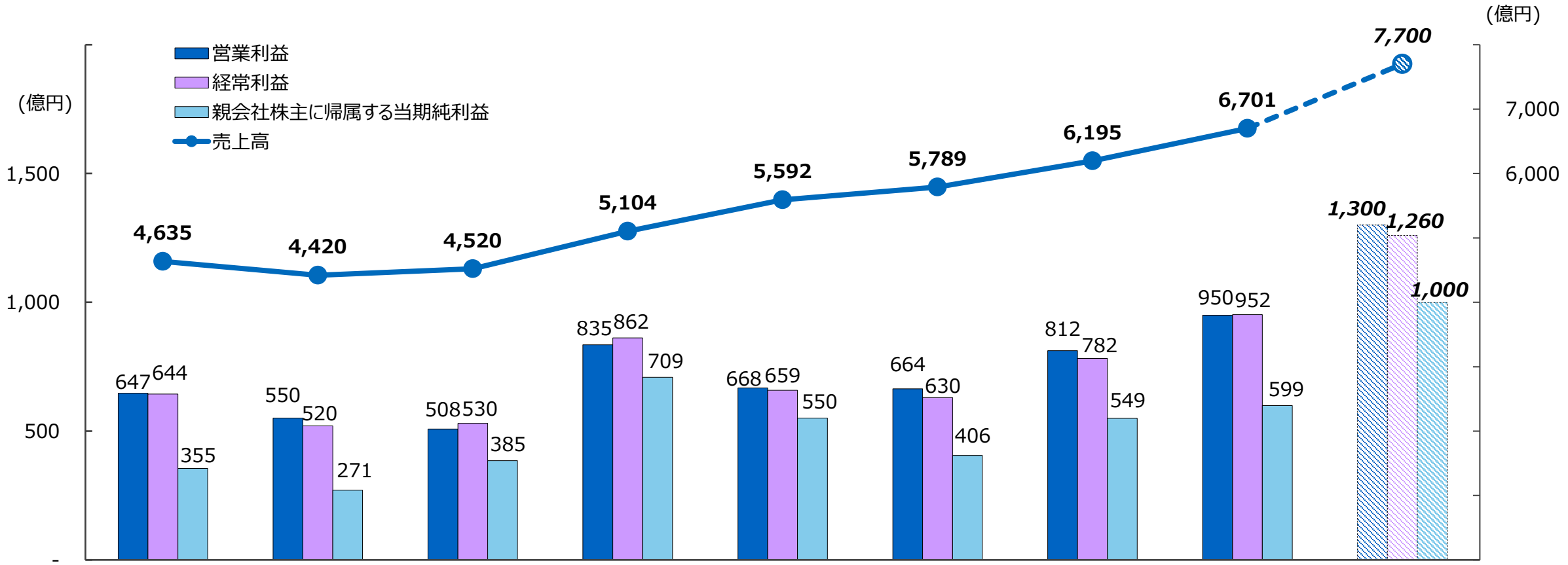
（億円）

<セグメント間売上高消去後>	26年3月期		27年3月期（予）	
	上期	下期	上期	下期
ハニカム	466	478	498	482
GPF	270	258	253	317
Cd-DPF・大型ハニカム	373	376	429	411
SiC-DPF	381	406	403	407
センサー	329	352	385	405
産業プロセス※	106	121	115	145
エンバイロメント合計	1,925	1,990	2,082	2,168
半導体製造装置用製品	697	735	865	965
電子デバイス	150	189	271	289
金属	131	152	164	196
デジタルソサエティ合計	978	1,076	1,299	1,451
エナジーストレージ	67	51		
エネルギープラント※	51	54	61	49
がいし	241	268	267	303
その他			4	16
エネルギー＆インダストリー合計	359	373	332	368
全社合計	3,262	3,439	3,713	3,987

※ 2027年３月期の期首より事業セグメントを変更し、産業プロセスのEP系列をエンバイロメントからエネルギー＆インダストリーに移管しています。
この変更に伴い2026年３月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

業績推移



	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度（予）
為替レート									
USD	111円	109円	106円	113円	135円	144円	152円	151円	155円
EUR	128円	121円	124円	131円	141円	157円	164円	175円	180円
ROE	7.6%	5.8%	7.9%	12.9%	9.0%	6.1%	7.8%	7.8%	12.1%
EPS	110.35円	84.73円	121.61円	226.56円	177.47円	133.65円	185.96円	206.32円	354.02円
一株当たり配当金	50円	50円	30円	63円	66円	50円	60円	80円	126円

All Rights Reserved ©2026 NGK Corporation

NGK
Surprising Ceramics.

本資料は当社の経営方針、計画、財務状況等の情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。
本資料に記載されている業績目標及び数値等はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績数値は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知置きください。

【問合せ先】
〒467-8530 名古屋市瑞穂区須田町2-56
ＩＲ窓口 ： 財務部 開示グループ
Tel： (052) 872-7210　Fax： (052) 872-7160
E-mail： ir-office@ngk.co.jp
Website： https://www.ngk.co.jp